

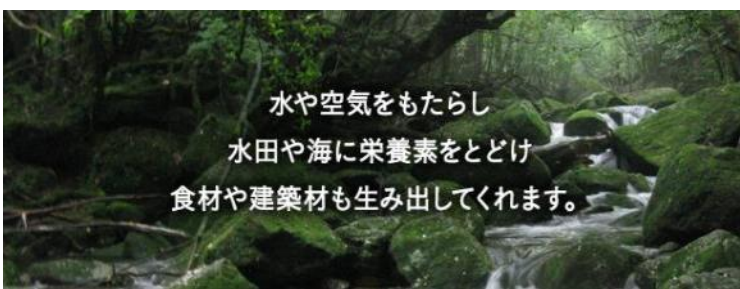
報徳思想を基軸とした 森林組合経営の実践

目 次


1. 掛川市森林組合の紹介
2. 日本林業・森林組合の現状と課題
3. これからの森林組合にかかる期待
4. 二宮尊徳の生い立ち・功績・報徳思想
5. 協同組合と報徳思想の歴史的親和性
6. 報徳と林業、報徳思想と森林組合経営
7. 掛川市森林組合の実践事例



森林はいのちの故郷




水や空気をもたらし
水田や海に栄養素をとどけ
食材や建築材も生み出してくれます。



土砂災害を防ぎ、
CO2を吸収して
地球温暖化の防止にも役立ちます。



いきいきとした森林が生み出す
安全な環境と良質な木材を提供したい。
山村をもっと元気にしたい。



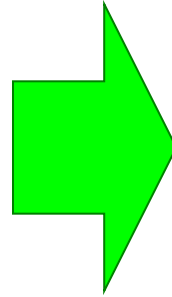
私たちは未来を見据えて
健全な森林づくりを進め、
林業の発展のために取り組んでいます。

至誠（しせい）

勤労（きんろう）

分度（ぶんど）

推譲（すいじょう）



誠を尽くして

よく働いて

分をわきまえ節約し

余れば他の為に使え

- ★ “四つの徳目” は、儒教の「仁・義・礼・智・信（五常）」を土台として再構成された実践倫理であり、森林組合の人づくり・組織づくりの指針としても極めて親和性が高い

積 小 為 大

- ・ 大きな事をしたければ小さな事を怠らず勤めるがよい
- ・ 小が積もって大になる、これを積小為大という

- 二宮尊徳は「自然の摂理＝人の道」と説いた
- 森の循環（植える → 育てる → 伐る → また植える）は
人と経済と地域の循環に通じる
- 協同組合の理念（共助・共育・共栄）はまさに
報徳の実践形である
- 今、森林組合経営の羅針盤として「報徳思想」
を再確認する